

I. 神奈川県内 c. 海成・河成堆積物
(9) 新山下町層 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 20

標本名 新山下町層 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.96 m, 高さ 0.61 m

重量 12.3 kg (板付き)

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大型移動
棚に収蔵

採集地 神奈川県横浜市中区山手町

緯度・経度 N35°26'16.0", E139°39'29.6"

標高 8 m

露頭の種別と現状 崖上部の露頭、不明

露頭面の向き、傾斜 不明

走向・傾斜 不明

堆積物の種別 貝殻を含む砂礫層 (海成層)

年代 下末吉相当層 (新山下町層)

採集作業 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 松島義章、田口公則

採集日 1998年4月12日

その他 大塚 (1937) が新山下町層とした砂礫層の一部と考え、剥ぎ取り標本の採集当初に「新山下町層」の名を便宜的に使用していた。新山下町層の地層名での詳しい記載がなく、大塚 (1937) は屏風ヶ浦砂泥互層の一部であるとした。本標本の由来層の詳細は不明であるが、本報告では下末吉相当層とした。

関連文献等

日本地質學會; 日本地質学会. 地層名辞典刊行委員会 (1965). 地層名辞典: 日本新生界ノ部. 東京大学

出版会.

解説 崖上部の露頭の崩落による含化石岩塊の表面を剥ぎ取りした標本である。二枚貝など貝回化石を多数含むが、殻は溶脱しており内型の化石が多い。放射肋の発達する貝 (イタヤガイ) が多く見られる。その他の種は、内型であるため種同定が難しいが、カガミガイ、トリガイ、ヤツシロガイに似る貝を含んでいる。

記録者 田口公則

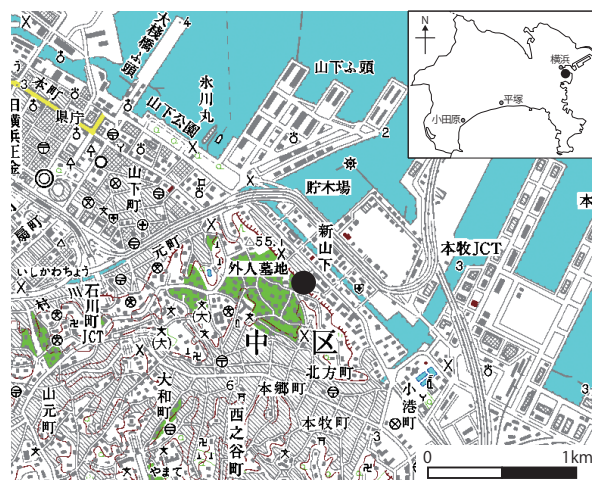


図 9-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 9-2. 剥ぎ取り標本の写真。